



2015～16 年度  
国際ロータリー会長  
K. R. ラビンドラ

# Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度  
新潟ロータリークラブ会長  
竹石 松次

新潟 RC11 月第 2 例会 (2015.11.17) No.3110

## (1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

## (2) 竹石 松次 会長挨拶

堀口大学

明治二十五年（1892）～昭和五十六年（1977）

生まれたのは東京の本郷であるが、父・九萬一は長岡市出身であり、二歳の時に長岡に生活の場を移した。このため大学は、十七歳まで長岡市の坂之上尋常小学校、長岡中学校で学んだ。

大学の名前は、九萬一の家が東京大学の赤門近くで、東京帝国大学在学中に誕生したことから命名された経緯がある。漢詩人であり、外交官である父の、影響を受け数奇な運命と共に詩人としての一生を貫き文化勲章を受章している。

その功績は小千谷の西脇順三郎、魚沼市の宮柊二と共に詩人、歌人の三壁とも言える。

父の九萬一が新潟師範、東京帝国大学を経て外交官に就任、韓国仁川の領事官補を皮切りに、メキシコ、ベルギー、スペイン、ブラジルに赴任、こうしたことから大学は、母・政と共に長岡で暮らすこととなった。しかし、母・政が病死し、祖母の手によって中学卒業まで育てられる。大学数え年四歳であった。

長岡中学を卒業した大学は上京し、与謝野鉄幹、晶子が主宰する新詩社に入る。大学が詩の世界を中心とした文学と正面から取り組んだ瞬間である。詩人であり小説家でもある佐藤春夫との出会いも大きく影響した。

大学は尊敬する永井荷風のいる慶応大学に入学、本格的な文学活動を開始することとなるが、父の九萬一は、大学が文学の世界に入ることに難色を示し、赴任先のメキシコに呼びよせることとし慶応を中退させた。継母として入ったベルギー人のステナ・ジェテルンドにフランス語を学んだ。この母のもとで二十二年間過ごしたことからその後、フランスの詩の世界を知ることとなったほか、西洋文学との接点が強固となった。

大学は一時外交官試験を受け、最終段階の口述試験まで進んだが、持病の呼吸器の疾患で断念、本格的な文学への道に進む決意を強固としたため父も同意をすることとなった。

この時の心情を大学は、

「詩人を長男にもつわがはひを父の嘆けば秋の風吹く」

（詩集「パンの笛」）

外交官を諦めた大学は、この時二十六歳、フランスにいてコクトー、アポリネール、ボードネール、コクトーといったフランス象徴派詩人、現代詩人と交流を図った。大正七年（1918）処女訳詩集「昨日の花」を発刊、やがて自らの詩「月光とピエロ」大正八年に発表した。そして、訳詩集「月下の一群」大正十四年と作品を発表していった。フランスの詩人の作品が一挙に翻訳され、しかも豪華本で出版されたということは、空前絶後の出来事であったという。新しい西洋詩は、その後の我が国の詩に対する考えを変える事件であった。

この詩集が昭和の現代詩に大きな影響を与えたことは特筆する出来事で、やがて新詩運動へと連動することとなった。

越の山里冬早み

紅葉が上に雪ふりつ

きそ錦繡の夢のあと

けふ白妙のわがおもひ

（「夢のあと・冬心抄」）

大正、昭和の混乱期を乗り越えるため大学は、四十七歳の昭和十四年、二十歳の妙高高原のマサノ二十歳と結婚、長男が誕生、長男の広胖（こうはん）は、父がかつて入学した慶応大学に入るが在学中の昭和三十九年（1964）白馬岳で遭難する。この時に大学が詠んだ詩がある。

山を見る

じっと目を閉じ

犀星が越後の山か

紀の国の春夫の山か

あらず わがまぶたの山は

冴えかえる月の光に

峨々として雪にかがやく

神域の安曇の山は

子の眠る白馬岳は

（「わが山・月かげの虹」）

終戦前後の昭和二十五年、それまで身を寄せていた上越市（高田）を後にし、神奈川県葉山に移った。書斎には、与謝野晶子、永井荷風、佐藤春夫の書が掲げられ、文学に生涯をかけた先輩や友人を讃えた。

大学は、昭和四十五年（1970）、文化功労賞を受賞した他、五十四年には、文化勲章を受章した。

母校長岡高校の前庭には「母校百年の詩碑・老雪」が建立され、大学も除幕式に参列した。

北国も弥生半ばは  
雪老いて痩せたりな  
つやあせて 香の失せて  
わが姿さながらよ  
咲く花は見ずて消ゆ

大学の外国生活は、その生涯において詩人としての傑出した人材を生み出した。中でもスペインでは、女流画家のマリー・ローランサンとの出会いが、芸術を通じて強いきずなを築いた。ローランサンは、大学を「日本の驚」と呼んだほどである。そして、ローランサンを通じ、かつての親友であった詩人アポリネールとも交友を重ね、ピカソ、ブラックといった前衛絵画運動＝キュビズムのスポークスマン役であった＝に触れることとなった。

長岡市のとなり、小千谷市出身の西脇順三郎との交流、また、五泉市出身の画家阿部展也がイタリアでの生活を通じて、やはりキュビズムの運動をイタリアから日本に発信した足跡は奇遇である。

大学は、昭和五十六年（1981）三月十二日、晩年暮らした葉山で没した。八十九歳であった。

近くの森戸神社境内に詩碑が建立されている。

「花は色 人はころ」

### (3) 新潟RA吉岡智哉会長ライラ参加報告・修了証書贈呈

新潟ローターアクトクラブ、会長の吉岡です。私の方からは、11月24、25日の2日間に渡って行われました、第15回ライラ研修についての報告をさせていただきます。

今回のライラ研修は、新潟薬科大学を会場に、『健康』特に、『健康寿命』をテーマに行われました。一日目には、新潟県立植物園や石油の里など周辺地域の散策を通して、健康への隠されたヒントを探りました。また、二日目は始めて会った研修生同士でグループディスカッションを行い、各々で『健康寿命』をのぼすための解決策を導き出し、発表しました。そこでは、自由な発想と意見が飛び交い、非常に充実して有意義な時間を過ごすことが出来ました。

また今回の研修で、自由な意見・発想をする場というのが大切に、貴重な事だということも知りました。それは、昨今溢れる情報により、真偽を判断するのが難しく、自由な意見・発想は批判の対象となるからです。大学という場においても、客観的評価を出せないことを理由にグループディスカッションは敬遠される傾向にあるそうです。そんな中、今回のような場を与えていただいた、ホストの新津中央ロータークラブ、ならびにロータークラブの皆様には感謝いたします。

さらに、次回ライラ研修のホストクラブを勤めるのは新潟ロータークラブと伺っております。今期アクト会長として、運営に携わる人間の一人として、今回の研修の経験を基に、次回に多くの参加を得られるように、広報等尽力していこうと思います。

### (4) 委員会報告

・織戸財団委員長より

財団月間に因み、本日ミリオンダラーミールを実施致しました。(11/10 理事会にて承認済) 1人10ドル×93名分=930ドルをポリオプラス寄付にさせていただきます。ご協力大変ありがとうございました。

ロータリーカード入会のお願いです。ご利用頂くと、ご利用金額の0.3%がロータリーに送金され、ポリオ撲滅のための資金やロータリー財団年次基金実績になります。0.3%はカード会社（オリコ）の負担となりますので、会員の皆様には一切負担が掛かりません。また、スタンダードカードは、年会費無料です。是非入会頂けるようお願い申し上げます。

・内田インターアクト委員長より 献血協賛金のお願い

・玉親睦委員長より、新年家族会のご案内

2016年1月12日に予定しておりました新年家族会は、芸妓さんの都合により1月19日 午後6時より行形亭にて開催致します。

### (5) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(織戸 潔委員長)

鈴木 滋弥君

米山奨学会寄付発表(若杉武副委員長)

小林 敬直君 竹石 松次君

樋熊 紀雄君 徳永 昭輝君

後藤 司郎君

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

小林 敬直君 岡村 健吉君

高橋 清文君 若杉 武君

小林 悟君

### (6) ニコニコボックス紹介(竹田 正弘委員)

・鈴木 滋弥君 4月からはじまったNHK越後三十三観音巡礼の旅が11月11日に終わりました。無事満願に達しニコニコです。

・松本 英明君 結婚記念日の花、ありがとうございます。家内が大変喜んでくれました！！

・柴田 史郎君 お見舞いいただき、有難うございました。少々体調をくずしておりましたが先週から例会に出席しております。

・竹田正弘君 誕生日に大好きなワインを頂きニコニコです。

### (7) 2016～17 年度地区役員委嘱状伝達

・吉田和弘君 青少年奉仕委員会 ライラ委員長

・高橋秀樹君 ロータリー財団学友会委員長

・得永哲史君 ロータリー財団委員会 資金管理委員長

・宇尾野隆君 米山記念奨学委員会 奨学生選考委員

(8) 会員スピーチ

「2020 年を超えて。マーケティングの視点」

(株)新潟博報堂代表取締役社長 山田 真 君

(9) 11月17日例会の出席率 72.63 %

会員数98名（出席免除会員 8名）

出席者69名（出席免除会員5名を含む）

2週間前は祭日につき例会は開催されませんでした。

12月1日の例会予定 「年次総会開催」

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

ミリオンダラーミールの謂われ

ロータリー情報委員 小山楯夫

ミリオンダラーミールは、財団募金方法の一つです。1960年から1961年にかけてロータリーの会員数50万人に達した時期、米国マサチューセッツ州のロータリーアン、チェスター・クラップ氏の提案により始まりました。当時795地区は、マサチューセッツ州とロードアイランド州の47クラブによって構成されていました。チェスター・クラップ氏が世界に呼びかけたのが始まりです。日本では、神戸ロータリークラブが1964年12月17日に始めました。

ミリオンダラーミールの謂われは「50万人の会員が2ドルずつ食事代を節約すれば100万ドル財団に寄附する事ができる」と言う説と、当クラブ会員で元ガバナーの故渡辺徹一氏から聞いた話ですが「節約した食事とはいえ、飢餓に瀕した人々にとっては100万ドルに値するご馳走である」とのこと。R.I.やロータリー財団が公式に認めているものではないが、強制的な寄付でないので良い方法だと思う。やろうと思えば毎週できる。